

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

&lt;小規模多機能型居宅介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1473600557
法人名	社会福祉法人 誠幸会
事業所名	グループホーム 泉の郷上飯田
訪問調査日	令和6年11月8日
評価確定日	令和7年1月14日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

### ○項目番号について

外部評価は23項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和6年度

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473600557	事業の開始年月日	平成15年3月1日
		指定年月日	令和3年3月1日
法人名	社会福祉法人誠幸会		
事業所名	グループホーム 泉の郷上飯田		
所在地	(245-0018 ) 横浜市泉区上飯田町1260		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	令和6年10月20日	評価結果 市町村受理日	令和7年1月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街の中に立地しており、近隣住民と交流のある生活の為に散歩等で外出機会を多くしています。ホーム内でも健康やADLの維持の為に体操やレクリエーションを行っています。また、日々のバイタル測定や活動の中で、ご利用者の表情や仕草の変化から体調変化を早期発見する事により、かかりつけ医等の医療につなげる事で、重度化の予防に努めています。新型コロナウイルス感染予防対策として、ラウンジ内に空気清浄機の設置、各所にアルコール消毒液の設置、訪問者の方々に検温と体調チェックボードへの記入のお願いをさせて頂いています。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和6年11月8日	評価機関 評価決定日	令和7年1月14日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は社会福祉法人誠幸会の運営です。同法人は、横浜市内を中心に「高齢者介護・障害者支援・保育」を軸に総合福祉サービスを展開しており、高齢者介護では「サービス付き高齢者住宅・特別養護老人ホーム・軽費老人ホーム・グループホーム」などの入居系サービス、「訪問介護・訪問看護・デイサービス」などの在宅系サービスを提供し、利用者のニーズに合わせたサービスを展開しています。ここ「グループホーム泉の郷上飯田」は相鉄いずみ野線「いずみ中央駅」からバスに乗り「児童公園前」で下車、市営住宅が建ち並ぶ道路より徒歩5分程の閑静な住宅街にあり、すぐ前には同法人が運営する就労支援事業のパン工房「ホップ」もあります。

●法人の基本理念「ひたむきに幸せの和をひろげ、誰もが笑顔で暮らせる社会をつくる」を掲示し職員間で共有しています。今年度の法人方針「対話」に対し事業所では、日々の対話の「7個条」を作成して、職員全員に配布し、人間関係の連携や、強化を図っています。

●事業所では、災害発生時における対応に注力して取り組んでいます。年2回の避難訓練では、火災発生想定での避難・誘導・消火・通報訓練に加え、タオルを使用した簡易担架の作り方や、車椅子での階段昇降訓練も取り入れられています。また、法人本部の部門別会議でも、防災について話し合いが行われており、災害時において利用者ならびに職員の人命を如何にして守るか、対応や方針について協議されています。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 泉の郷上飯田
ユニット名	めぐみ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ひたむきに幸せの和をひろげ、誰もが笑顔で暮らせる社会をつくる。を基本理念に事業活動を展開しています。また、法人全体会議や毎回の申し送りで唱和し周知をしています。	法人の基本理念「ひたむきに幸せの和をひろげ、誰もが笑顔で暮らせる社会をつくる」を申し送り時に唱和し共有しています。今年度の法人の方針「対話」に対して事業所では、日々の対話の「7個条」を作成して、職員全員に配布しています。毎月の職員会議では、人間関係の改善などについて説明しています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域にある就労支援B型のパンの購入や、地域の会合に施設として参加し、イベントがあれば参加をしています。(コロナウイルス感染及び蔓延予防の為見合わせ) また、散歩等ですれ違った方と挨拶や会話をすることで、日常的な会話になるように支援している。	自治会に加入し、コロナ禍で地域の会合には参加は出来ませんが、回覧板を通して地域の情報を得ています。地域の防災訓練に職員が参加し、近隣の小学校の運動会には、利用者と一緒に見学しています。また、散歩時には、挨拶を交わすなど地域の方との交流をしています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区役所やケアプラザ、ケアマネジャーなどから紹介頂き、地域の方から連絡があれば相談に乗るようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回運営推進会議を開催し、各種報告事項の中でいただいたご指摘や情報等あれば職員と共有するようにしている。	運営推進会議は、奇数月毎に、自治会役員・泉区高齢者支援課・地域ケアプラザ職員などの参加で開催しています。今年度は対面での開催とし、運営状況・行事報告・事故・ヒヤリハット等を報告しています。自治会役員の方から地域の情報をいただき事業所のサービス向上に活かしています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム内で何か起きれば区役所の担当の方と連絡を取り共有している。	横浜市や泉区からの研修・講習会の案内や、情報等はメールでいただいています。今年度は社会福祉協議会主催の「アンガーマネジメント講座」に参加しています。地域のグループホーム連絡会には法人本部が入会し、興味のある研修等に参加しています。生活保護受給者の受け入れを行っており、泉区担当者の定期的な訪問があります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関や窓の施錠はせずに外に出たい方がなるべく外に出れるように対応しています。夜間は防犯の為に施錠を行っています。身体拘束については周知を行っており、今年度は感染症対策の為に、集合形式の研修やアンケート形式で実施する。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回各ユニット毎の担当職員と管理者で開催しています。法人本部の委員会には、管理者が参加しています。職員会議で議事内容の報告をし、欠席者には議事録を回覧しています。身体拘束の指針を整備し、年3回の内部研修や、職員会議でも身体拘束についての話しを行っています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起きないよう職員と困った事の共有を行っています。今年度の勉強会は感染症対策の為に書類や集合研修での周知をする。	虐待防止委員会を3ヶ月に1回、各ユニット毎の担当職員と管理者で開催しています。職員会議で議事内容の報告をし、欠席者には議事録を回覧しています。虐待の防止についての指針や、マニュアルを整備し、年3回内部研修を実施しています。年1回は自己点検シートによる確認や、職員がストレスを溜めない様日頃から気を付けています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や制度について勉強会を実施し、周知。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、内容を読み上げだけでなく、事例をあげながら解釈も伝え、質問も受けるようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望があれば職員と共有し、対応している。	家族の面会は、感染症に注意しながら居室で15分程度で行っています。行事や体調の変化など何かあれば電話連絡を行い意見や、要望を伺っています。行事の時には、写真を送っています。事務所の玄関に意見箱を設置していますが、利用は無く直接話をいただいています。いただいた意見、要望などは申し送りノートにて職員間で共有し、対応しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	玄関に投書箱を設置し、意見を聞けるようにしている。	日々の申し送りは、全体とユニット毎の申し送りノートで確認しています。法人では内部監査委員会があり、何かあれば職員は直接メールで連絡する事ができます。職員全員との個人面談を実施し、フリーで悩み事などの話や、業務面での振り返りなども話し合い、意見や提案等も聴いています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月勤務実績をだし、年2回の評価をおこなっている。また、定期的な見直しをおこない給与水準を満たしている。	毎月の勤務実績を出し、処遇改善加算等を行い職員に対応しています。法人指定の評価表により、年2回の評価を行い賞与等に反映させています。年度の終わりには、職員個々の年間目標の振り返りの提出と、次年度の目標を設定しています。月毎の希望休や、年次有給休暇について交代制で取れるようにしています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は感染症対策も考慮しながら施設内の研修を行う。日々のケアの中で介護技術を高めれるようコミュニケーションを行う。	新人職員には法人本部と事業所にてオリエンテーションを実施し、合わせて接遇や、介護技術についても研修しています。入職後1ヶ月～3ヶ月の期間で様子見を行い先輩職員のOJTを実施しながらシフト勤務に入っています。年間で事業所内研修と法人研修を計画しています。外部研修や、資格取得の支援制度もあります。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	職員研修を兼ねて施設間で交換研修を行い、また法人内の会議や親睦会を通して職員交流を兼ねている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に行う事前面接でのご様子やご家族、医療機関の情報をもとに入居日にお見せするケアプランに不安や要望を取り入れて安心確保につとめている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることや不安は入居前に行う事前面接や入居時契約の際にお聞きし、実施できるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時必要な支援は家族からの希望や本人からの訴え、希望を聞き、生活されている様子をみていく中で見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	要望を訴えられる利用者に対しては本人の要望をお聞きし、そうでない利用者は家族に聞きながら職員と利用者の関係が一方通行にならないように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でなかなか実施出来ないが、面会に見えたご家族との時間を大切に、居室内で団らんの時間を過ごして頂いたり、ご家族とご本人とでお散歩や外出、外食されたりしする方もいらっしゃる。また、外泊をされる方もいらっしゃる。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙のやりとりや電話でのやり取りをされている方もいらっしゃる。面会に見える方もいらっしゃる。	家族や友人の面会は、感染症に注意しながら居室で行い、関係が途切れないよう支援しています。事務所に掛かってきた電話の取次ぎや、手紙や葉書を出す支援もしています。家族と一緒に外出して受診や外食、墓参りなどする方の支援をしています。車の好きな方とドライブしたり、洗車を一緒にするなど支援もしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの利用者に寄り添えるよう、リビングでのサービス提供や居室でも過ごせる環境作りを意識している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中そのまま退居となる利用者には入院先の病院と協力しながら次の転居先を探していくフォローをしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や生活の様子から意向を見つけ出ししており、言葉以外の行動パターンや表情などからも意向を探り出して本人本位にできるように試みている。	入居時の事前面談では、自宅や施設に伺い自宅での生活環境、既往歴、趣味、嗜好などと今後の生活の希望など聴いています。入居後は、日頃の利用者の行動や会話、職員の気づきなど、思いや意向の把握につなげています。得られた情報は、口頭や業務日誌、申し送りノートで共有しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接の報告書や本人からのお話、ケアプランを参考に把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、排泄パターンの記録、実際のケアの中で現状把握している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や関わりのあった方が面会に来る際や、電話や手紙のやり取りのなかで要望、意見を確認し、ケアプランにつなげている。	事前面談報告書などを基に初回の介護計画を作成し、1ヶ月程様子を見て大きな変化が無ければ3ヶ月後に見直しを行っています。介護計画のモニタリングは、日々職員が確認しています。介護計画の更新は基本的に6ヶ月の期間で行い、管理者・ケアマネジャー・居室担当職員・当日出勤の職員等でケアカンファレンスを実施し、利用者の現状に即した介護計画を作成しています。家族には書面や電話で意見をいただき、介護計画に反映させています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の個別ケース記録や職員同士の申し送りを通じて共有し、ケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のアセスメントでご本人の意向をケアプランにのせながら、包括的にその場に応じて対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、ご利用者と一緒にはなかなか行けていないが、要望があれば近隣にある商店等で買い物をしたり、地域の防災訓練等に参加することでおこなっている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回のかかりつけ医の訪問診療があり、体調に変化があった時には早期に受診をしている、また、専門以外は他医院等への紹介状を出していただいている。	入居時に事業所の協力医療機関について説明を行い、本人や家族の希望を伺っています。現在は入居前のかかりつけ医を受診する方と、協力医療機関の月1回の訪問診療を受ける方がいます。専門以外の科を受診する場合は、紹介状を出して貰い受診しています。歯科は月2回の訪問診療があり、歯科衛生士は別の週に月2回訪問があり口腔ケアを行っています。週1回は法人の訪問看護師により体調管理を行っています。緊急時の連絡は、訪問看護ステーションや、管理者へ行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で報告や相談をおこない、訪問日以外でも連絡を取ることで指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の相談員や看護師などから現状を管理者が確認して早期退院を目指している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在の状態をもとに家族と今後について話し合いの場を作っている。訪問診療や訪問歯科等による医療面からの内容もご家族と共有し、次の施設への転居内容も支援している。	重度化した場合のあり方や、看取り指針について契約時に説明し、同意書を取り交わしています。重度化が確認された場合は、家族と話し合いの場を設け、延命措置に対して事業所で出来る事、出来ない事の説明を行い、家族の意向を確認しています。ハード面での生活が厳しくなった状態で次の施設への案内も支援しています。条件を満たしたうえで看取りを行う場合には、看取り介護計画書を作成しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新型コロナウイルス感染予防為、今年度は実施していないが、本部で行われる心肺蘇生の内部研修で学び実践力を身につけている。日々のケアでも事故発生時を想定して取り組んでいる。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルス感染予防の為前年度は地域の方を呼んでいないが年2回の避難訓練がありその際には地域の方に開催のご連絡はしている。	年3回、火災発生の想定で避難・誘導・消火・通報などの訓練を実施し、タオルを使用した担架の作り方や、車椅子の階段の降り方なども実施しています。法人本部の部門別会議で防災について話し合いを行っています。BCPの対応では、書類の整備と研修や訓練を実施し、備蓄品のリストアップをして用意するようになっています。現在は、水・米・お粥・懐中電灯・ランタン・衛生用品など用意しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重を基本にした言葉かけ、介助を徹底している。	入職時のオリエンテーションでは、接遇やマナー等と、介護技術について学んでいます。法人内部研修では、接遇・言葉遣い・マナーなど計画して全職員を対象に実施しています。日頃では、本人が恥ずかしい思いをしないようなケア方法で、プライバシーの保護に配慮した対応をするようにしています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こまめに声をかけ、話を傾聴することで訴えを聞きだし反映させている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日にお散歩へ行きたいか？入浴したいか？どこで過ごしたいか？などをご利用者ごとに確認したうえでケアにあたっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出されない日でも身だしなみを整えられるよう支援している。服の枚数が少ないご利用者にはご家族に説明をおこない購入の支援をしている。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に調理出来る方が少なくなっているが、もやしの芽取りや味見、食後の食器洗いやおぼん拭きを手伝っていただいている。	食材は、業者からレシピ付きで発注し職員が調理しています。利用者は皮むきなどの下拵えや、食器洗い・拭き、お盆拭き、テーブル拭き等出来る方に手伝っていただいています。お祭りや、クリスマスなど行事の際は、発注を止め、お寿司など特別食を用意して提供しています。誕生日には、ケーキを買ってお祝いしています。おやつ等は、パンケーキ・どら焼き・お汁粉・甘酒など手作りしています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は食材購入を外部発注し、献立も発注業者の栄養士が作成している。食事形態はかかりつけの歯科医に評価していただき、本人の意向も考えながら刻み、ミキサーなどの形態を嚥下に合わせて提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。うまくできないご利用者には職員が介入して対応している。また毎週訪問歯科に指導もしてもらっている。			
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表のデータと日々の状態観察を行いながら、タイミングをみてお声掛けによるトイレ誘導を行っている。出来る限りトイレ内での排泄が出来るように支援している。	全員の排泄状況を排泄チェック表に記録しています。自立の方で排便をされた場合は、声掛けをお願いし確認しています。排泄のパターンの把握をして本人の表情や、行動、タイミングを見ながら声をかけ、トイレでの排泄を支援しています。入居時にオムツやリハビリパンツを使用していた方をタイミング良く声かけする事で失敗が減ったなどの実績もあります。		今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト、牛乳、オリゴ糖等を使って便秘予防をしている。出来る範囲で散歩に出るようにし、便秘予防に取り組んでいる。			
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	最低でも週2～3回以上入浴ができるように支援している。本人希望や医師、看護師の指示により毎日入浴されている利用者もいる。	入浴は午前・午後を問わず利用者の希望に合わせて、週2回以上出来るよう支援しています。自立の方で午前8時に入浴する方にも本人の希望を大切に支援しています。足腰の不自由な方にも、出来る限り浴槽に浸かっただく為に2人介助で行う事もあります。ゆず湯・菖蒲湯等、季節のお風呂も楽しんでます。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠がちな利用者は医師に相談し、薬の調整を行っている。体力や体調をみながら日中活動的に過ごし、夜寝れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がなくなるように施設内研修を行い職員の薬に対する意識を高めている。薬のセットからチェック、服薬、服薬後まで間違えないよう取り組んでいる。受診時、薬に変更がないか医師に確認し、薬剤師には飲み合わせも確認して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクのなかでも歌、ぬり絵、パズル、漢字ドリル、計算ドリル等ご本人の得意分野でやりがいを持てるように支援している。新聞を読まれる方へも毎日朝刊が届くので提供している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出れるよう支援している。現在は新型コロナウイルス感染予防の為に実施していないが、ご家族とドライブや外出に行かれる方もいる。	天候の良い日には、利用者の体調などに配慮しながら、近所の公園や、お寺まで散歩にお連れしています。事業所の庭を廻りながら外気浴をする方もいます。家族と一緒に散歩に出かけたり、車で外出する方の支援をしています。正月の初詣に近くの神社や、桜の季節には近隣の公園にお花見に出かけています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本ご家族管理とし、預り金としていつでも使う事が出来るようにしている。また、金銭管理の支援として、職員と一緒に必要な物、欲しい物をリスト化して購入につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙で連絡をしたい時になるべく出来るように支援している。また、深夜や早朝等迷惑にならないよう配慮している。連絡の可否については事前にご家族等と打ち合わせを行っている。			
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感は重視した空間作りを意識している。前年度は新型コロナウイルス感染予防の為に実施していないが、ご利用者が参加されているフラワーアレンジメントの作品やレクで作った絵を展示している。温度調整は温度計を見て室温設定を行っている。	リビングは情報量によって混乱を招くことも考慮し、家庭的な雰囲気の中で生活感や季節感を重視しています。庭に咲く花を職員と一緒に飾ったりドライフラワーにして飾ることもあります。季節や行事の際には、折り紙や貼り絵など飾っています。各フロアのエアコンのリモコンが事務所に設置され管理しています。ソファースペースが有りテレビを見たり話しをしたりする場所になっています。掃除は、利用者も手伝って掃除機等を使用して行っています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やラウンジで自由に過ごせるように配慮している。ラウンジには食堂以外の場所にも椅子やソファを置き団欒しやすい環境にしている。			
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れたものを使用されたり、入居後に職員と選んで購入されたものを使用されている。	各居室には、エアコン・クローゼット・防災カーテン・照明・ナースコール等が完備されています。入居時には使い慣れた物や、好みの物を持ち込んでいただくよう薦め、テレビ、ダンス、CDラジカセ、化粧道具、人形、家族写真などを活かして、本人が居心地よく過ごせるよう支援しています。配置は、動線を考えながら利用者と一緒に決めています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面段差の少ない設計をしている。また、車いすの方や視覚障害のある方でも生活出来るように物の配置も考えて支援している。			



事業所名	グループホーム 泉の郷上飯田
ユニット名	ぬくもり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ひたむきに幸せの和をひろげ、誰もが笑顔で暮らせる社会をつくる。を基本理念に事業活動を展開しています。また、法人全体会議や毎回の申し送りでも唱和し周知をしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域にある就労支援B型のパンの購入や、地域の会合に施設として参加し、イベントがあれば参加をしている。(コロナウイルス感染及び蔓延予防の為見合わせ) また、散歩等ですれ違った方と挨拶や会話をする事で、日常的な会話になるように支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区役所やケアプラザ、ケアマネジャーなどから紹介頂き、地域の方から連絡があれば相談に乗るようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回運営推進会議を開催し、各種報告事項の中でいただいたご指摘や情報等あれば職員と共有するようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム内で何か起きれば区役所の担当の方と連絡を取り共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関や窓の施錠はせずに外に出たい方になるべく外に出れるように対応しています。夜間は防犯の為に施錠を行っています。身体拘束については周知を行っており、今年度は感染症対策の為、集合形式の研修やアンケート形式で実施する。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起きないように職員と困った事の共有を行っています。今年度の勉強会は感染症対策の為書類や集合研修での周知をする。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や制度について勉強会を実施し、周知。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、内容を読み上げだけでなく、実例をあげながら解釈も伝え、質問も受けるようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望があれば職員と共有し、対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	玄関に投書箱を設置し、意見を聞けるようにしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月勤務実績をだし、年2回の評価をおこなっている。また、定期的な見直しをおこない給与水準を満たしている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は感染症対策も考慮しながら施設内の研修を行う。日々のケアの中で介護技術を高められるようコミュニケーションを行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	職員研修を兼ねて施設間で交換研修を行い、また法人内の会議や親睦会を通して職員交流を兼ねている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に行う事前面接でのご様子やご家族、医療機関の情報をもとに入居日にお見せするケアプランに不安や要望を取り入れて安心確保につとめている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることや不安は入居前に行う事前面接や入居時契約の際にお聞きし、実施できるように取り組んでいる。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時必要な支援は家族からの希望や本人からの訴え、希望を聞き、生活されている様子を見ていく中で見極めるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	要望を訴えられる利用者に対しては本人の要望をお聞きし、そうでない利用者は家族に聞きながら職員と利用者の関係が一方通行にならないように努めている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でなかなか実施出来ないが、面会に見えたご家族との時間を大切にし、居室内で団らん時間を過ごして頂いたり、ご家族とご本人とでお散歩や外出、外食されたりしする方もいらっしゃる。また、外泊をされる方もいらっしゃる。			
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙のやりとりや電話でのやり取りをされている方もいらっしゃる。面会に見える方もいらっしゃる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの利用者に寄り添えるよう、リビングでのサービス提供や居室でも過ごせる環境作りを意識している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中そのまま退居となる利用者には入院先の病院と協力しながら次の転居先を探していくフォローをしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や生活の様子から意向を見つけ出し、言葉以外の行動パターンや表情などからも意向を探り出して本人本位にできるように試みている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接の報告書や本人からのお話、ケアプランを参考に把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、排泄パターンの記録、実際のケアの中で現状把握している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や関わりのあった方が面会に来る際や、電話や手紙のやり取りのなかで要望、意見を確認し、ケアプランにつなげている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の個別ケース記録や職員同士の申し送りを通じて共有し、ケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のアセスメントでご本人の意向をケアプランにのせながら、包括的にその場に応じて対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、ご利用者と一緒にはなかなか行けていないが、要望があれば近隣にある商店等で買い物をしたり、地域の防災訓練等に参加することでおこなっている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回のかかりつけ医の訪問診療があり、体調に変化があった時には早期に受診をしている、また、専門以外は他医院等への紹介状を出していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で報告や相談をおこない、訪問日以外でも連絡を取ることで指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の相談員や看護師などから現状を管理者が確認して早期退院を目指している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在の状態をもとに家族と今後について話し合いの場を作っている。訪問診療や訪問歯科等による医療面からの内容もご家族と共有し、次の施設への転居内容も支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新型コロナウイルス感染予防が、今年度は実施していないが、本部で行われる心肺蘇生の内部研修で学び実践力を身につけている。日々のケアでも事故発生時を想定して取り組んでいる。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルス感染予防の為前年度は地域の方を呼んでいないが年2回の避難訓練がありその際には地域の方に開催のご連絡はしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重を基本にした言葉かけ、介助を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こまめに声をかけ、話を傾聴することで訴えを聞きだし反映させている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日にお散歩へ行きたいか？入浴したいか？どこで過ごしたいか？などをご利用者ごとに確認したうえでケアにあたっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出されない日でも身だしなみを整えられるよう支援している。服の枚数が少ないご利用者にはご家族に説明をおこない購入の支援をしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に調理出来る方が少なくなっているが、もやしの手取りや味見、食後の食器洗いやおぼん拭きを手伝っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は食材購入を外部発注し、献立も発注業者の栄養士が作成している。食事形態はかかりつけの歯科医に評価していただき、本人の意向も考えながら刻み、ミキサーなどの形態を嚥下に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。うまくできないご利用者には職員が介入して対応している。また毎週訪問歯科に指導もしてもらっている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表のデータと日々の状態観察を行いながら、タイミングをみてお声掛けによるトイレ誘導を行っている。出来る限りトイレ内での排泄が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト、牛乳、オリゴ糖等を使って便困予防をしている。出来る範囲で散歩に出るようにし、便秘予防に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	最低でも週2～3回以上入浴ができるように支援している。本人希望や医師、看護師の指示により毎日入浴されている利用者もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠がちな利用者は医師に相談し、薬の調整を行っている。体力や体調をみながら日中活動的に過ごし、夜寝れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がなくなるように施設内研修を行い職員の薬に対する意識を高めている。薬のセットからチェック、服薬、服薬後まで間違えないよう取り組んでいる。受診時、薬に変更がないか医師に確認し、薬剤師には飲み合わせも確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクのなかでも歌、ぬり絵、パズル、漢字ドリル、計算ドリル等ご本人の得意分野でやりがいを持てるように支援している。新聞を読まれる方へも毎日朝刊が届くので提供している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出れるよう支援している。現在は新型コロナウイルス感染予防の為に実施していないが、ご家族とドライブや外食に行かれる方もいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本ご家族管理とし、預り金としていつでも使う事が出来るようにしている。また、金銭管理の支援として、職員と一緒に必要な物、欲しい物をリスト化して購入につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙で連絡をしたい時になるべく出来るように支援している。また、深夜や早朝等迷惑にならないよう配慮している。連絡の可否については事前にご家族等と打ち合わせを行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感は重視した空間作りを意識している。前年度は新型コロナウイルス感染予防の為に実施していないが、ご利用者が参加されているフラワーアレンジメントの作品やレクで作った絵を展示している。温度調整は温度計を見て室温設定を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やラウンジで自由に過ごせるように配慮している。ラウンジには食堂以外の場所にも椅子やソファを置き団欒しやすい環境にしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れたものを使用されたり、入居後に職員と選んで購入されたものを使用されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面段差の少ない設計をしている。また、車いすの方や視覚障害のある方でも生活出来るように物の配置も考えて支援している。		



事業所名	グループホーム 泉の郷上飯田
ユニット名	かがやき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ひたむきに幸せの和をひろげ、誰もが笑顔で暮らせる社会をつくる。を基本理念に事業活動を展開しています。また、法人全体会議や毎回の申し送りでも唱和し周知をしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域にある就労支援B型のパンの購入や、地域の会合に施設として参加し、イベントがあれば参加をしている。(コロナウイルス感染及び蔓延予防の為見合わせ) また、散歩等ですれ違った方と挨拶や会話をする事で、日常的な会話になるように支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区役所やケアプラザ、ケアマネジャーなどから紹介頂き、地域の方から連絡があれば相談に乗るようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回運営推進会議を開催し、各種報告事項の中でいただいたご指摘や情報等あれば職員と共有するようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム内で何か起きれば区役所の担当の方と連絡を取り共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関や窓の施錠はせずに外に出たい方になるべく外に出れるように対応しています。夜間は防犯の為に施錠を行っています。身体拘束については周知を行っており、今年度は感染症対策の為、集合形式の研修やアンケート形式で実施する。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起きないように職員と困った事の共有を行っています。今年度の勉強会は感染症対策の為書類や集合研修での周知をする。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や制度について勉強会を実施し、周知。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、内容を読み上げだけでなく、実例をあげながら解釈も伝え、質問も受けるようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望があれば職員と共有し、対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	玄関に投書箱を設置し、意見を聞けるようにしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月勤務実績をだし、年2回の評価をおこなっている。また、定期的な見直しをおこない給与水準を満たしている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は感染症対策も考慮しながら施設内の研修を行う。日々のケアの中で介護技術を高められるようコミュニケーションを行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	職員研修を兼ねて施設間で交換研修を行い、また法人内の会議や親睦会を通して職員交流を兼ねている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に行う事前面接でのご様子やご家族、医療機関の情報をもとに入居日にお見せするケアプランに不安や要望を取り入れて安心確保につとめている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることや不安は入居前に行う事前面接や入居時契約の際にお聞きし、実施できるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時必要な支援は家族からの希望や本人からの訴え、希望を聞き、生活されている様子を見ていく中で見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	要望を訴えられる利用者に対しては本人の要望をお聞きし、そうでない利用者は家族に聞きながら職員と利用者の関係が一方通行にならないように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でなかなか実施出来ないが、面会に見えたご家族との時間を大切にし、居室内で団らん時間を過ごして頂いたり、ご家族とご本人とでお散歩や外出、外食されたりしする方もいらっしゃる。また、外泊をされる方もいらっしゃる。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙のやりとりや電話でのやり取りをされている方もいらっしゃる。面会に見える方もいらっしゃる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの利用者に寄り添えるよう、リビングでのサービス提供や居室でも過ごせる環境作りを意識している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中そのまま退居となる利用者には入院先の病院と協力しながら次の転居先を探していくフォローをしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や生活の様子から意向を見つけ出し、言葉以外の行動パターンや表情などからも意向を探り出して本人本位にできるように試みている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接の報告書や本人からのお話、ケアプランを参考に把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、排泄パターンの記録、実際のケアの中で現状把握している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や関わりのあった方が面会に来る際や、電話や手紙のやり取りのなかで要望、意見を確認し、ケアプランにつなげている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の個別ケース記録や職員同士の申し送りを通じて共有し、ケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のアセスメントでご本人の意向をケアプランにのせながら、包括的にその場に応じて対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、ご利用者と一緒にはなかなか行けていないが、要望があれば近隣にある商店等で買い物をしたり、地域の防災訓練等に参加することでおこなっている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回のかかりつけ医の訪問診療があり、体調に変化があった時には早期に受診をしている、また、専門以外他医院等への紹介状を出していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で報告や相談をおこない、訪問日以外でも連絡を取ることで指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の相談員や看護師などから現状を管理者が確認して早期退院を目指している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在の状態をもとに家族と今後について話し合いの場を作っている。訪問診療や訪問歯科等による医療面からの内容もご家族と共有し、次の施設への転居内容も支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新型コロナウイルス感染予防が、今年度は実施していないが、本部で行われる心肺蘇生の内部研修で学び実践力を身につけている。日々のケアでも事故発生時を想定して取り組んでいる。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルス感染予防の為前年度は地域の方を呼んでいないが年2回の避難訓練がありその際には地域の方に開催のご連絡はしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重を基本にした言葉かけ、介助を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こまめに声をかけ、話を傾聴することで訴えを聞きだし反映させている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日にお散歩へ行きたいか？入浴したいか？どこで過ごしたいか？などをご利用者ごとに確認したうえでケアにあたっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出されない日でも身だしなみを整えられるよう支援している。服の枚数が少ないご利用者にはご家族に説明をおこない購入の支援をしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に調理出来る方が少なくなっているが、もやしの芽取りや味見、食後の食器洗いやおぼん拭きを手伝っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は食材購入を外部発注し、献立も発注業者の栄養士が作成している。食事形態はかかりつけの歯科医に評価していただき、本人の意向も考えながら刻み、ミキサーなどの形態を嚥下に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。うまくできないご利用者には職員が介入して対応している。また毎週訪問歯科に指導もしてもらっている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表のデータと日々の状態観察を行いながら、タイミングをみてお声掛けによるトイレ誘導を行っている。出来る限りトイレ内での排泄が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト、牛乳、オリゴ糖等を使って便困予防をしている。出来る範囲で散歩に出るようにし、便秘予防に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	最低でも週2～3回以上入浴ができるように支援している。本人希望や医師、看護師の指示により毎日入浴されている利用者もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠がちな利用者は医師に相談し、薬の調整を行っている。体力や体調をみながら日中活動的に過ごし、夜寝れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がなくなるように施設内研修を行い職員の薬に対する意識を高めている。薬のセットからチェック、服薬、服薬後まで間違えないよう取り組んでいる。受診時、薬に変更がないか医師に確認し、薬剤師には飲み合わせも確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクのなかでも歌、ぬり絵、パズル、漢字ドリル、計算ドリル等ご本人の得意分野でやりがいを持てるように支援している。新聞を読まれる方へも毎日朝刊が届くので提供している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出れるよう支援している。現在は新型コロナウイルス感染予防の為に実施していないが、ご家族とドライブや外食に行かれる方もいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本ご家族管理とし、預り金としていつでも使う事が出来るようにしている。また、金銭管理の支援として、職員と一緒に必要な物、欲しい物をリスト化して購入につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙で連絡をしたい時になるべく出来るように支援している。また、深夜や早朝等迷惑にならないよう配慮している。連絡の可否については事前にご家族等と打ち合わせを行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感は重視した空間作りを意識している。前年度は新型コロナウイルス感染予防の為に実施していないが、ご利用者が参加されているフラワーアレンジメントの作品やレクで作った絵を展示している。温度調整は温度計を見て室温設定を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やラウンジで自由に過ごせるように配慮している。ラウンジには食堂以外の場所にも椅子やソファを置き団欒しやすい環境にしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れたものを使用されたり、入居後に職員と選んで購入されたものを使用されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面段差の少ない設計をしている。また、車いすの方や視覚障害のある方でも生活出来るように物の配置も考えて支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所                     泉の郷 上飯田                    

作成日                     令和6年11月8日                    

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	同じ内容を2回に分ける集合研修の開催を行うが情報の共有が難しかった	引き続き同じ内容の研修を開催し、介護の質の維持、向上を目指す。	分散型の集合研修を開催し、感染症に配慮しながらも学びの場となるように活動する。	1年間
2	48	感染症対応緩和による影響が見えにくいですが、活動を活発にすると同時に感染症対策を考える必要がある。	レクリエーションの充実により楽しみの代替えが出来ている。	レク委員会が年間季節行事たて、楽しんでいただく時間を提供する。また、企画を実行する事で職員も楽しく職務につけるようにする。	1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
 注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。